ひなたさんぽ

弧を描く軌跡から生まれる　新たな場所と未来への新たな価値

「少し歩いてみようか。」

駅から出て目的地へ向かう人々へ、新たな価値と出会える場所を。
この場所を歩き、モノや人と出会い、生まれるフィジカルな感覚が地域全体、社会への持続可能な価値や意識を育んでいく。

交通拠点の新たな景色として生まれ変わるこの場所では、

- **多様な利用者の円滑な動線と滞留空間**
- **気持ちよくスポーツができる環境**
- **豊かな自然があり、落ち着いた中庭空間**

をつくり、地域全体へ、この場所、地域の魅力の浸透させます。

多様な利用者の円滑な動線と滞留空間

デッキが繋ぐアークゲート

■ 現状

駅前中央広場は、新幹線と在来線、高架道路に囲まれ、明治用水沿いに美しく整備されたサイクリングロードが南北に走っています。また、駅のロータリーは、南口、北口、中央口の計3つが存在しており、中央口のロータリーは、他と比べ、余裕のある広場と多方向の道路網がデザインされています。
現状、多くの利用者が重なるエリアであるが故に、利用形態の明確なデザインがなく、今後の整備により、多くの新たな可能性が生まれる場所です。

□ 交通、人の流れの課題

- 交通量の少ない中央ロータリーが、前面広場へのアクティビティーを分断している
- 新幹線と在来線への連絡通路は長く単調で、新たな価値が生まれる場所として相応しくない
- 新幹線.在来線からアリーナへの大人数の利用にあたり安全性の確保が必要
- 市内を巡回する公共バス本数が少ないため利用しづらい
- 南北のサイクリングロードが連絡通路等により分断され、迂回が必要

アクティビティーを増加させる交通規制

1、駅前中央広場に通る道路を封鎖

2、交通量の少ない道路を一方通行

3、サイクリングロードを駅前中央広場まで接続し
　自転車利用の促進

上記交通規制を行い、多数の車の流入を防ぎます。
また、円滑な歩行者の流れをつくるとともに、新たなアクティビティーと余白のある滞在時間をつくります。

アリーナへの人の流れ

現状、在来線側からアリーナへ向かう場合、新幹線側へのスロープ状の連絡通路から、新幹線側へ渡り、歩道からの動線が想定できます。しかし、連絡通路は直線が長く、大人数が利用するにあたっては安全面が担保できていないと考えます。また、雨天時では、歩道においても危険が伴うと思われます。

ペディストリアンデッキによる歩車分離と雨天時の対応

大多数の多様な人がこのまちに流れ込むことを考慮し、ペディストリアンデッキにより完全な歩車分離を行い安全性を高めます。
既存の連絡通路と、一部つながるように計画し、鉄道会社側とのバランスをとります。
デッキの幅は、一様ではないが、6.5mほどあるものとして想定します。

デッキ下空間利用

バスターミナル

レンタサイクル

今後MaaSやデマンド交通などの次世代交通に対応し、カーボンニュートラルニュートラルを達成するためにも交通ターミナルとしての機能が必須になります。多種の交通機関が集中でき、利便性が高くなります。

周辺地域への賑わいの波及

自転車通路やレンタサイクル、駐輪場を整備し、自転車の利用を促進します。それにより、周辺地域を含めた賑わいの活性化をねらいます。

弧を描く新たなシンボル

ペディストリアンデッキは美しい弧を描き、シーホース三河のホームタウンとしてのわくわく感を演出します。
デッキの上下の視線の交錯が利用者の好奇心を刺激し、新たなシンボルとなります。
また駅前広場でのイベント開催も想定し、広場とデッキを利用した仕掛けを計画していきます。

気持ちよくスポーツができる環境

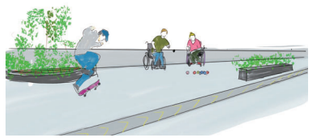
弧を描くスポーツコート

シーホース三河のアリーナ建設により，この地域のスポーツへの関心が高まることが想定されます。このエネルギーを発散できる場所を提供し、大いにあそび、仲間を増やすことで健康寿命が長くなることを目指します。

イベント時のデッキ上　（スポーツコート）

興行時には多くの店舗が出店できます。
また、十分な幅のあるデッキにより、円滑な移動が可能であり、地域のバリアフリー化が可能となります。また、電動車椅子も整備します。
将来的には電動車椅子の自動運転等未来の技術がこのデッキと広場から行われていければと考えます。

開放時のデッキ上　（スポーツコート）



興行時以外は一部を封鎖し、スポーツを楽しめるエリアとして開放します。
一例として、ダンス、ヨガ、ゲートボール、ボッチャ、スケートボードなど　を想定します。
振動発電を設置して、大いに騒いで揺れてもらい電気に変換するような新たなテクノロジーの導入していきます。

デッキ上にも植栽をし、単調な空間ではなく、動の場と静の場が混在するように計画し、中庭コートとは別の滞留スペースとして、ミーティングや休憩スペースとしての利用も想定します。

豊かな自然があり、落ち着いた中庭空間

個を繋ぐ中庭コート

・農業による交流の促進と街の景色づくり

農業をこの場所から発信することで、地域の魅力を発信します。農業に関わる他施設との連携すると共に、持続可能な循環型社会をフィジカルに体験できる仕組みをつくり、環境意識を育みます。
また、街の景色の緑視率をあげ、心地よい豊かな景色を創造します。

・新たなアクティビティを育む

中庭の賑わいを創出するための場所や設備を設置します。
限定的な使われ方ではなく、利用者が創造し、そこで生まれる出会いが新たな出会いへ繋がっていきます。

積極的な緑化

現状、駅前中央広場は広場面積に対して緑化エリアが少なく、使い方が限定されないためか、閉散とした印象を受けます。
環境都市として積極的な緑化を行い、このまちの豊かなイメージを印象付ける場とします。

テナント誘致

ペディストリアンデッキにより生まれた屋根下空間は新幹線側テナントのテラス席としても利用できるため、賑わいを活性化させます。
テラス席からは、緑化された広場を望み、魅力の一つになります。

農業による心地よい新たな景色づくり

ファームフロントの景色に隣接する居住者にはインフィニティーファームバルコニーを提案し、緑豊かな新たな景色を生み、自然由来の空調エネルギーやCO2削減を促します。
また堆肥による循環型まちづくりの一人となってもらい、地域の交流の輪を広げていきます。

・なぜ農業か？

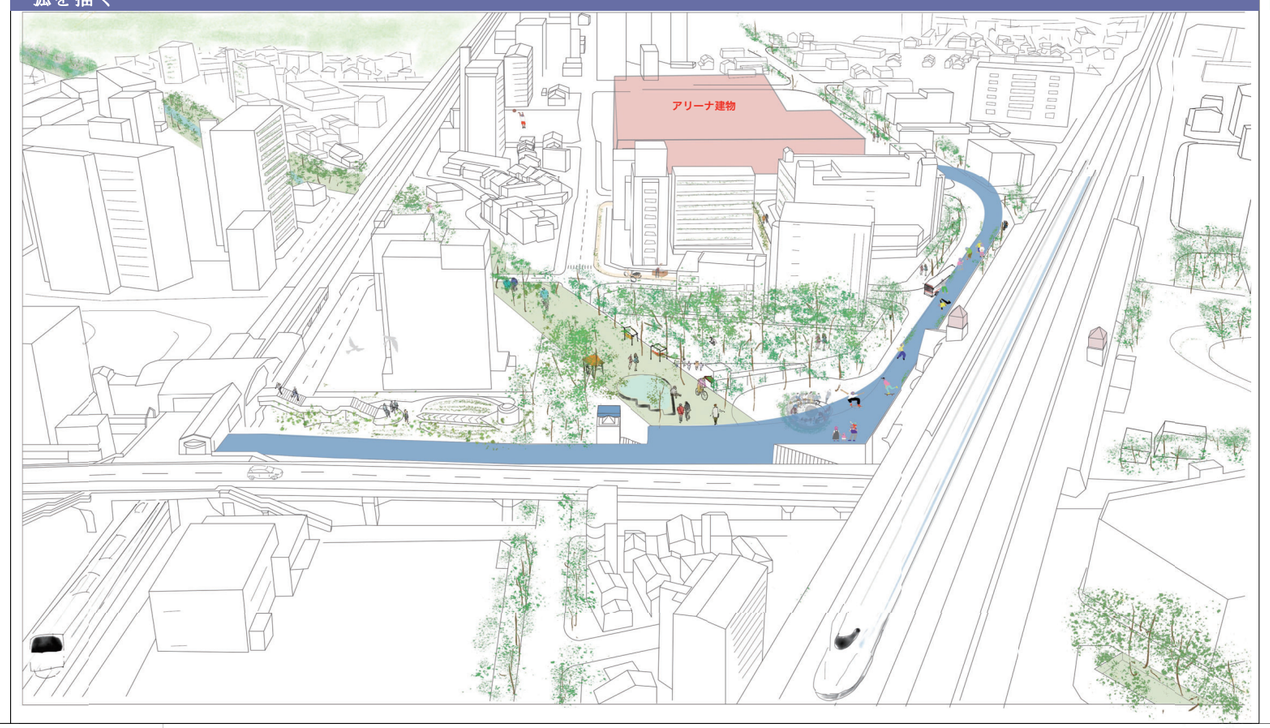
安城市は「地球にやさしい環境都市宣言」を表明しており、これまで様々な施策を展開していて環境配慮の意識が高いです。
農業分野では果物や野菜の特産品も多く，産業に関しても次世代技術やものづくりの企業が多く存在します。

三河安城駅の周辺は、商業地域と市街化調整区域が近接しているため、ビル群に対比して、田園風景の広がりが美しく感じられます。豊かな農地の景色はこの地域のアイデンティティの一つです。
この景色を守るとともに農業を持続するため、安城市の他の施設とも連携しあい、循環する社会の仕組みを、この場所から形成します。

車線規制により道路幅を縮小することでできた新たな敷地に、アートやテック系のコワーキングスペースの簡易建築を計画します。そこから生まれる新たな出会いと価値が、未来のまちを創造することを期待します。また、個人事業や中小企業のスタートアップへの支援が、一つの街のブランディングにもなり、若年層の新たな定着.流入も期待します。

交わる線がコを描く

弧を描く



個が繋ぐ

コンポストによる循環型まちづくり

自転車道脇の余白スペースにコンポスト（堆肥をつくる容器）を設置します。
循環型まちづくりの一つのしかけとして、堆肥から育まれる野菜や木花などが、人々の交流の一翼になっていきます。
コンポスト肥料は家庭菜園など行う有志に無料で提供します。

サポート炊事場

この炊事場は会員制とし、流し台と包丁などの調理器具を備えます。この場所で購入した野菜や果物を、ランチやおやつに、利用者のアクティビティーをサポートします。
皮などの有機物をコンポストにいれてもらいます。

アクティビティを育む場所

感動する経験が人を豊かにします。
パブリックな交流の場所としてデザインし、新たな出会いを創出し、刺激し、感動を生む場を理想とし、提供します。
例えば、
1. 複数の学校の生徒が交流し、合唱祭を開催。学外の交流を促進します。
2. 誰でも利用可能な屋外講義の場として提供し、さまざまなテーマの講話から新たな好奇心を刺激し合います。

道路の規制利用

既にロータリーへの車の流入量などの調査が行われ、イベント時などの封鎖が可能であることが実証実験により分かっています。継続的な調査と利用者への聞き取りを行い、慎重に進めていきます。

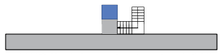
アプリ等によるデータ利活用

デマンド交通、レンタサイクル、アリーナ入場、コンポスト利用等において、スマートフォンでの専用のアプリを導入を検討していきます。ビッグデータの蓄積・分析により、新たなアクティビティの仕掛けづくりや、パーソナライズされたプロモーション・サービス展開などの活用も視野に入れ、循環型まちづくりの管理体制をつくっていきます。

デッキの整備工程

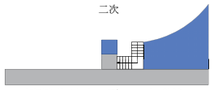
アリーナ来場者数の動向やリニア開通による新幹線利用者の増加、区画整理事業による人口動向を調査し、規模や設備等の検討を協議しながら進めていきます。

一次



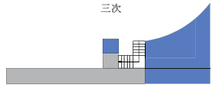
既設連絡通路にエレベーターを新設し車椅子利用者等の動線を確保

二次



既存連絡通路にデッキを増築

三次



既存連絡通路の構造支柱を一部利用しリノベーション

環境整備方法

長期の街の形成を、市民へ見える化するため、苗の植樹を行います。植樹は、ワークショップにより市民や教育機関と共に行います。
自ら街を触る経験が未来に繋がっていきます。

広場周辺のテナントの誘致には、新規参入が難しくない方法を計画します。
コンテナハウスなどの簡易的な建築を利用し、飲食や物品販売のテナントを誘致します。それにより周辺の賑わいを活性化を狙います。
利用者数の調査を合わせて行い、施設の規模を街の形成とともに調整可能な計画とします。